

【資料 1】

「公立大学法人島根県立大学『中期目標』検討に向けた提言書」を受けての所感

概要

はじめに

- 「有識者会議提言書」
- 理事長所感

(1) 改革本部の設置および改革期間

- 改革本部の設置
- 改革期間

(2) 学部・大学院改編

- 総合政策学部の改編
- 支援協議会の要望
- 将来構想検討結果報告書
- 状況の変化
- 総合政策学部改編案
- 学科構成
- 新学部開設年度
- 大学院の改編
- スクラップアンドビルド

(3) 北東アジア地域研究センターの改組転換

- 研究分野の拡大
- 組織の見直しと研究力の向上
- 「しまね地域共創研究センター」の設置

- 「島根県立大学国際地域研究センター」への改組転換

(4) 入試改革

- 高大接続と大学入試改革
- 県内高校生比率の向上
- 全学入試制度検討委員会
- 高校と連携した人材育成
- 県内就職率の向上

(5) ガバナンス改革

- 理事長権限の確立
- 学部改編の推進
- 裁量予算、教育研究費の見直し
- 入試改革
- 教員定数の運用

(6) その他の課題

- 教養教育実施体制の整備
- 学生支援、キャリア支援体制の整備
- 地域連携体制の整備

おわりに

- 地域貢献大学全国一を目標

公立大学法人島根県立大学中期目標（案） 骨子

I. 基本的な目標

地方の公立大学は、地域の将来を支える人材育成をはじめ地方創生の重要な役割を果たす必要があり、設置者の政策・方針を教育研究に反映し、地域社会の知的・文化的な中心拠点とならなければならない。

島根県立大学は、これまで高い就職率の実現や地域活動、国際交流をはじめとした様々な教育活動に取り組み、一定の成果を挙げてきたところであるが、近年の県内への就職者の減少、学生ニーズを反映した教育の更なる質の向上、研究成果の教育や地域への還元への促進、ガバナンス体制の整備など新たな課題への対応を迫られている。

このような点を考慮し、県立大学としての使命を再認識し、県立大学の目指すべき姿を「地域貢献・教育重視型大学」と位置づけ、島根県全域をフィールドとして捉えながら、実効性を伴う中長期的な見通しを持って「大学改革」を推し進める。

(1) 県民からの期待に応える存在意義の高い大学

県民本位・学生本位の大学、また島根における政策や戦略への関わりなどシンクタンクの機能の一翼を担う存在として、「県民に信頼される大学」、「県民に評価される大学」、「県民に開かれた大学」の実現を目指す。

(2) 地域に貢献する人材を輩出する大学

国際的な視点を併せ持ち、多角的な視野で地域をとらえることができる「グローバル人材」、及び主体的に問題を発見・整理・解決できる「実践力」を兼ね備えた人材を地域に輩出する。

(3) 地域が抱える諸課題に対応する研究及び教育を重視する大学

地域が抱える諸課題を解決するための研究及び大学の知的資源を活かした地域貢献を推進し、研究内容や成果を教育及び地域へ還元する。また、学生ニーズも踏まえながら、絶えず教育の質の向上を図る。

(4) 理事長・学長のリーダーシップのもと機動的かつ戦略的な運営を行う大学

社会情勢の変化や時代の要請に応えた大学改革を進めるため、理事長（学長）の強いリーダーシップの下、機動的かつ戦略的な大学運営を実施する。

II. 基本的な目標を達成するための取組

1. 中期目標の期間

平成 31 年 4 月 1 日～平成 37 年 3 月 31 日

2. 社会情勢の変化に的確に対応した大学づくり

県立大学は、大学を取り巻く社会情勢の変化、多様化する学生ニーズや地域からの要請に柔軟に応じていくことを意識しながら、地域貢献の先頭を走る大学として、特色・魅力ある大学づくりを推進する。

3. 大学の教育研究などの質の向上

実践力を備えた「グローバル人材」の育成に向けて、質の高い教育を提供するとともに、地域課題の解決のための研究を実施し、研究成果を教育・地域へ還元する。

地域や高校生へ県立大学の特徴や魅力の理解を促すため、明瞭かつ特色ある学修内容や育成する人材像を広く発信し、入学者の確保に努める。

教育研究組織は、地域のニーズや時代の変化に柔軟に対応し、学部学科の改編や、より高度な教育研究やリカレント教育など大学院のあり方を検討する。

(1) 教育

① 人材育成・組織の方向性

ア 総合政策学部

(ア) 地域社会及び国際社会の諸課題を学び、その解決に向けて取り組む実践力を備えた人材を育成する。

(イ) 地域の諸課題を解決する人材ニーズの高まりに対応するため、地域系に特化した学部・学科の設置を検討する。また、人材育成の考え方である国際的な視点に主眼を置いた国際系の学部・学科の設置を検討する。

イ 看護栄養学部

高度な専門性を持ち、看護と栄養の連携、実践力を備えた、自ら考え行動できる視野の広い専門職業人を育成する。

ウ 人間文化学部

地域における保育、教育を担う人材、及び文化の発見と継承や再生に取り組み、地域で活躍できる実践力を兼ね備えた人材を育成する。

エ 大学院修士課程、博士課程

高度な専門職業人、研究教育機関の中核を担う研究者などリーダー的人材を育成する。

[浜田キャンパス]

- (ア) 北東アジア開発研究科は、研究内容が密接に関係する北東アジア地域研究センターの今後の見直し状況を踏まえた見直しを行う。なお、見直しにあたっては、日本人学生及び社会人学生の確保、受け入れ増加に配慮する。
- (イ) また、平成 30 年度、松江キャンパスに 4 年制の人間文化学部を設置したことに伴い、人文科学系（松江キャンパス）と社会科学系（浜田キャンパス）の学部が存在することから、北東アジア開発研究科の改組など、総合的な大学院の可能性を検討する。
- (ウ) 社会人を対象とした学び直し等のニーズの高まりにも対応する。

[出雲キャンパス]

- (ア) 看護学研究科は、現在の修士課程に加え、地域看護の中心的な役割を担う高度な看護人材育成の観点から、平成 31 年度から博士後期課程を設置する。
- (イ) 健康栄養学科（4 年制）の今後の卒業生の進路の選択肢として、さらに高度な専門知識、研究能力を修得するための修士課程等の必要性について検討する。
- (ウ) 助産師の育成では、現在の別科助産学専攻に加え、多様な学びのニーズに応え、さらに高度な専門知識、研究能力を修得するため、看護学研究科の中へ平成 32 年度から助産師養成の分野を設置する。

オ 短期大学部

実務教育に教養教育を結合させ、課題探求力及び実践力を兼ね備えた人材を育成する。

② 教育内容の充実

ア 入学者の受入れ

- (ア) 若者の県内定着につながる県内高校生の入学者確保のため、中山間地域や専門の高校をはじめ県内高校からの入学者増に繋がる県内枠の拡充などの入試改革を実施する。

(イ) 県内高校との連携を一層深め、大学の魅力を積極的に伝える働きかけを行う。

イ 教育課程の充実

(ア) グローカル人材の育成に向けて、地域及び国際の双方の視点からの教育の方針を明確に示し、教育課程を編成する。

(イ) 地域の視点では、現場に赴き、地域の諸課題を発見・解決していく能力の育成を図る。

(ウ) 国際の視点では、国際的な語学力、コミュニケーション力を備え、世界的視野で諸課題を捉え、解決していく能力の育成を図る。

(エ) 社会人の学び直しなどのニーズの高まりに対応するため、リカレント教育を実施する。

③ 教育の質を高めるための取組

ア 授業アンケート等を使用した教育内容の質及び教職員の資質向上の取組を積極的に推進するとともに、自己点検や公的認証評価機関等の評価を適切にフィードバックし、教育の質の向上を図る。

イ 学習や研究に必要な施設・設備の整備や、キャンパス間の横断的かつ柔軟な教育プログラムや教員配置を進めるなど、効率的かつ効果的な教育体制を整備する。

④ 学生支援の充実

ア 各種奨学金制度などの学生への支援のあり方は、国内外の学生のバランス、将来的な地域への貢献見込みなどの視点も考慮する。

イ 学生の資格取得のための実習等では、学生が現場を理解する機会の充実を図る。

ウ 大学院進学、短大部の学生の4年制への編入、海外留学など進学に対する支援を実施する。

(2) 研究

① 目指す研究及び研究成果の地域への還元

ア 研究内容は、地域に貢献し大学教育に役立つという視点を持ち、シンクタンクの機能の強化も行うことによって、その成果を教育や地域に確実に還元する。

イ 県の実質負担を伴う研究については、特に地域貢献に主眼を置き、研究対象地域や分野の拡大や見直しを行う。

ウ 研究成果は、専門的な評価や地域の評価を受け、研究成果の評価なども踏まえながら、大学内予算配分などを柔軟に見直す。

② 研究実施体制などの充実

目指す研究及び研究成果の地域への還元の考え方を踏まえ、次のとおり研究組織の見直しを行う。

なお、それぞれの組織の見直しの後、各研究センターの役割や成果の検証を踏まえ、組織間の連携や統合の可能性も含めた組織のあり方を検討する。

ア 北東アジア地域研究センター

県内企業の海外進出の動向をはじめとした県内情勢を踏まえて、地域のニーズを的確に捉え、その成果を還元するため、研究対象地域を北東アジア地域から東南アジア地域等へ拡大するとともに、経済、社会分野への積極的な拡大を図る。

イ しまね地域共創研究センター（仮称）

地域研究の充実を図るため、その拠点として、しまね地域共創研究センター（仮称）を設置し、関係機関と緊密に連携を図りながら、島根県が直面する課題を研究する。

(3) 地域貢献・国際交流

① 地域貢献の推進

ア 地域の担い手となる人材の県内定着のため、学生と県内企業との交流会や短期インターシップなどの既存の取組の充実に加え、学生が企業と協働する長期・事業創造型インターンシップや、第二新卒者（企業を退職した県内指向者）向けの支援などにも新たに取り組む。

イ 地域連携センターを機能強化し、実践力育成など教育効果の視点から学生の積極的な参画を促しつつ地域教育の充実を図るとともに、しまね地域共創研究センター（仮称）を地域研究の拠点として設置し、自治体、県内中小企業、NPO法人、教育機関等と連携して地域課題解決に取り組む。

ウ 県民の学習意欲に対応するため、学習機会の提供や、施設の積極的な地域への開放を進める。

② 国際交流の推進

ア 学生の派遣と受入れの双方向の交流のための制度の充実などにより、学生の国際交流の推進体制を整備する。

イ 海外の大学及び研究機関との学術研究交流は、実績を踏まえた見直し、新たな関係の構築など、継続、発展させた取組を行う。

4. 自主的、自律的な組織・運営体制の確立

(1) 業務運営の改善

① ガバナンス体制の整備

ア 「地域貢献・教育重視型大学」の実現に必要な大学改革を進めるため、理事長（学長）のリーダーシップの下で、トップダウンの戦略的な大学運営を行うガバナンス体制を整備する。また、指揮命令系統の明確化などによる執行権限及び議決権を有する理事会による監督権限の両輪が機能する組織運営を行う。

イ ガバナンス体制は常に機能性の検証を行いながら、必要な見直しを行う。

② 効率的・合理的な運営のための見直し

大学運営は、スクラップアンドビルドによる運営を基本とし、組織や人員配置等については、時代のニーズを踏まえながら、PDCA サイクルによる定期的な見直しを行う。

(2) 経営基盤の強化

安定的な大学運営を行うため、外部研究資金等自主財源の確保、運営経費の抑制に取り組み、中長期的な経営計画に基づいた適正な財務運営を推進する。

5. 評価制度の充実及び情報公開の推進

- (1) 自己点検や外部からの評価を分析し、組織や業務執行の改善・改革に取り組む。
- (2) 経営情報、評価の結果など積極的に開示する。

6. その他業務運営に関する重要事項

- (1) 大学の魅力や特色が広く県民に理解及び支援されるよう、戦略的な広報活動を行うとともに、業務改善のための広聴活動を積極的に行い、大学の運営に反映させる。
- (2) 学生と教職員の安全と健康、及び災害等緊急時の適切なリスク管理を実施するための危機管理体制を確保する。

「平成29年度 縁結びプラットフォーム運営委員会総会」の開催について

1 設置目的

縁結びプラットフォーム運営委員会は、平成25年度に採択された文部科学省「地(知)の拠点整備事業」に関して、地域と共に将来を担う人材を共育し、住み良い地域を共創し、持続可能な共生社会の実現を目指す「縁結びプラットフォーム」において、地域課題解決に向けた取組を推進することを目的とし、平成25年度に設置したものです。

2 構成

当該運営委員会は、連携する自治体、経済団体、NPO法人及び公立大学法人島根県立大学等から選出された委員をもって構成しております。

3 日時

平成30年3月20日（火） 13:30～15:30（終了予定）

4 会場

島根県立大学浜田キャンパス 本部棟2階 会議室

5 主催

公立大学法人島根県立大学

6 主な議事内容

- ・平成29年度事業実績、事業評価（自己評価・外部評価）について
- ・平成25年度～平成29年度の総合事業評価（自己評価・外部評価）について
- ・その他

平成 29 年度学生表彰

「島根県立大学賞」の授与について

平成29年度「島根県立大学賞」を以下のとおり授与します。これらの賞は、本学の学生が、学術、芸術、スポーツ、文化活動及び社会活動において他の学生の範となる行動を行い、又は優秀な成果を挙げた場合等に表彰を行うものです。

表彰部門及び選考対象

- (1) 学術部門 公表された学術研究成果
- (2) 芸術部門 文学、美術、音楽、演劇等の分野において発表された作品
- (3) スポーツ部門 公的な大会における上位入賞その他これに準ずる場合
- (4) 文化活動部門 本学及び学外における課外文化活動の成果発表、展示等
- (5) 社会活動部門 ボランティア活動、人命救助その他の社会の範となる活動を行った場合

「平成 29 年度島根県立大学賞」 浜田キャンパス受賞者（個人：4 名、団体：1 団体）

(1)

受賞者	4 年生 <small>かわの しゅうすけ</small> 河野 終佑
部門	社会活動
功績等	<p>河野終佑は、中国への留学経験を活かし、国際交流会館の寮長や国際交流活動サークル「セカイへ」創設の発起人として、自ら学内の国際交流活動に関わり、国境や文化を越えた留学生と日本の学生とのネットワークづくりに貢献した。</p> <p>平成 28 年度には、内閣府国際交流事業に日本代表青年として選出され、参加青年のまとめ役を務めた。また、本学と益田市匹見町の官民協働による「インバウンド促進プロジェクト」や公民館での子どもたちとの交流活動、本学の留学生と共に地域の中国語教室を支援する活動等を積極的に行い、国際交流を通じた学内外、国内外における社会活動に多大な貢献を行った。</p>

(2)

受賞者	3 年生 <small>イ ハジューン</small> 李 夏峻 3 年生 <small>イ ウジン</small> 李 義眞 2 年生 <small>イ ベ ヨンヒョソン</small> 裴 榮賢
部門	社会活動
功績等	<p>韓国からの交換留学生である李夏峻、李義眞、裴榮賢は、留学期間である 1 年間を通じて、週 2 回石見公民館で開催されている韓国語教室に参加し、韓国語を通じた地域交流を行った。また、本学が実施した国際交流イベント「Let's connect in Hamada」や、大田市主催の「韓国文化体験講座」等に参加し活動を行うなど、地域住民と積極的に交流し、本学の国際交流活動及び地域社会に多大な貢献を行った。</p>

(3)

受賞者	「江津市庁舎プロジェクト」に取り組んだ八田ゼミ3年生11名
部門	文化活動
功績等	八田ゼミ（3年ゼミ）は、文化的地域資源としての江津市庁舎の魅力と可能性を探る「江津市庁舎プロジェクト」に3年間継続して取り組んだ。この間、パネル展示の実施やワークショップ・シンポジウムへの参加を通して研究成果を地域に積極的に公開し、シビック・プライドの喚起を行う文化活動を展開し地域社会に多大な貢献を行った。

➤ 表彰式

日時：平成30年3月19日（月）11:00～12:10

場所：講堂

※平成29年度卒業式に併せて実施

➤ 問い合わせ先

所属 島根県立大学浜田キャンパス教務学生課

電話：0855-24-2213 FAX：0855-23-7352

電子メール：h-kyoumu@u-shimane.ac.jp

「平成29年度島根県立大学賞」 出雲キャンパス受賞者（個人：4名）

(1)

受賞者	佐伯 晴香
部門	スポーツ
推薦理由	平成29年9月30日から10月10日に行われた第72回愛媛国民体育大会自転車競技に成年女子の部で島根県選手団員として出場した。 国体での活躍というより高い目標を持ち、練習や努力を重ね島根県代表に選出されたことは、他の学生の範となるものである。

(2)

受賞者	宍戸 由佳
部門	社会活動
推薦理由	本学入学後、雲南市の「チャレンジ動画(YouTube)」「波多マーケットでの支援」「波多交流センターでのイベント（琴の独奏）」「子宮頸がん検診の啓発(LINE スタンプ)」「人材育成幸雲南塾生のサポート」に参加した。中学生時は「幸雲南塾 in さんべ」、高校生時は「うなんん若者会議」「桜まつりでの若者チャレンジプロジェクト」「キョロパスツァーの企画」に参画しており、これまで継続して参加してきた経験を活かし、現在はサポート側として、主体的に活動を継続している。

(3)

受賞者	吉武 佳音 <small>よしたけ かのん</small>
部門	スポーツ
推薦理由	
<p>今年度空手サークルを立ち上げた主要メンバーであり、練習環境が整わない中練習に励んでいる。活動は大学内だけに留まらず、地域に出かけ、地域の子供たちの練習相手になるなど地域におけるスポーツ推進活動にも積極的に参加している。</p> <p>そのような状況下で、平成 29 年 12 月 9 日に東京武道館で行われる、第 45 回全日本空手道選手権大会に女子団体戦組手の部で島根県代表として出場することになった。</p> <p>練習環境が整わない中、独自に努力を重ね島根県代表に選出されたことは、他の学生の範となる。</p>	

(4)

受賞者	渡辺 水帆 <small>わたなべ みほ</small>
部門	スポーツ
推薦理由	
<p>今年度空手サークルを立ち上げた主要メンバーであり、練習環境が整わない中練習に励んでいる。活動は大学内だけに留まらず、地域に出かけ、地域の子供たちの練習相手になるなど地域におけるスポーツ推進活動にも積極的に参加している。</p> <p>そのような状況下で、平成 29 年 12 月 9 日に東京武道館で行われる、第 45 回全日本空手道選手権大会に女子団体戦組手の部で島根県代表として出場することになった。</p> <p>練習環境が整わない中、独自に努力を重ね島根県代表に選出されたことは、他の学生の範となる。</p>	

➤ 表彰式

日時：平成 30 年 3 月 8 日（木）9:00～

場所：出雲キャンパス大会議室

➤ 問い合わせ先

所属 島根県立大学出雲キャンパス教務学生課

電話：0853-20-0200 FAX：0853-20-0201

電子メール：ikyomu@u-shimane.ac.jp

平成 29 年度島根県立大学短期大学部学長賞 松江キャンパス受賞者（個人：2 名）

(1)

受賞者	総合文化学科 2 年 品川 裕衣 <small>しながわ ゆい</small>
部門	社会活動
推薦理由	
<p>震災ボランティア、国尾自治会との連携活動を中心にボランティア活動に励んだ。また大学募集以外のボランティア活動に積極的に参加した。本学ボランティアサークル volcano 部長。</p>	

(2)

受賞者	総合文化学科 2年 湯原 美久 <small>ゆはら みく</small>
部門	社会活動
推薦理由	障がい者支援、国尾自治会との連携活動を中心にボランティア活動に励んだ。また大学募集以外のボランティア活動に積極的に参加した。本学ボランティアサークルvolcano副部長。

➤ 表彰式

日時：平成 30 年 3 月 15 日（木）

卒業式終了後、系別卒業証書・学位記授与交付式において行う

場所：島根県立大学短期大学部

➤ 問い合わせ先

所属：島根県立大学短期大学部教務学生課

電話：0852-20-0216 FAX：0852-21-8150

電子メール：m-kyoumu@u-shimane.ac.jp

【資料 4】

平成 30 年 3 月 13 日
島根県立大学総合政策学部（浜田キャンパス）
総務課 岩本・槇野 TEL 0855-24-2200
島根県立大学看護栄養学部（出雲キャンパス）
教務学生課 坂田・澤田 TEL 0853-20-0200
島根県立大学人間文化学部
島根県立大学短期大学部（松江キャンパス）
管理課 原・鴨木 TEL 0852-26-5525

島根県立大学 入学式について

平成 30 年度の 3 キャンパス入学式及び大学院入学式を
下記のとおり挙行いたしますのでお知らせします。

記

【総合政策学部（浜田キャンパス）】

日 時 平成 30 年 4 月 3 日(火) 11:00～12:00（新入生入場 10:30 まで）

場 所 島根県立大学浜田キャンパス 講堂（浜田市野原町 2433-2）

当日午前 10 時から関係資料を講堂受付にて配布します。

【看護栄養学部（出雲キャンパス）】

日 時 平成 30 年 4 月 4 日(水) 10:00～11:20（新入生入場 9:45 まで）

場 所 島根県立大学出雲キャンパス 体育館（出雲市西林木町 151）

当日午前 10 時から関係資料を事務室にて配布します。

【人間文化学部・短期大学部（松江キャンパス）】

日 時 平成 30 年 4 月 4 日(水) 13:30～14:40（新入生入場 13:10 まで）

場 所 島根県立大学松江キャンパス 体育館（松江市浜乃木 7-24-2）

当日午前 12 時 30 分から関係資料を体育館受付にて配布します。

平成 30 年 3 月 13 日
 島根県立大学アドミッション室
 担当者 松崎
 電 話 0855-24-2203

【資料 5】

一般入試合格者の発表について

平成 30 年度一般入試の合格者を発表しましたので、お知らせします。

■島根県立大学（平成 30 年 3 月 5 日発表）：前期日程

	定員①	志願者数②	受験者数③	合格者数④	志願倍率 ②／①	実質倍率 ③／④
総合政策学部 総合政策学科 (3 教科型)	60 名	600 名	600 名 (453 名)	156 名	10.0 倍	3.8 倍
総合政策学部 総合政策学科 (5 教科型)	60 名	191 名	191 名 (161 名)	100 名	3.2 倍	1.9 倍
看護栄養学部 看護学科	38 名	215 名	168 名	46 名	5.7 倍	3.7 倍
看護栄養学部 健康栄養学科	20 名	99 名	80 名	24 名	5.0 倍	3.3 倍
人間文化学部 保育教育学科	20 名	98 名	84 名	29 名	4.9 倍	2.9 倍
人間文化学部 地域文化学科	30 名	101 名	88 名	38 名	3.4 倍	2.3 倍

注：（ ）内は個別学力検査を受験した受験者数です。

総合政策学部では、個別学力検査を受けなかった場合でも大学入試センター試験の成績のみを利用し合否判定を行います。

総合政策学部と人間文化学部（地域文化学科）は、3 月 12 日に後期試験を実施しています。

■島根県立大学短期大学部（平成 30 年 2 月 23 日発表）

	定員①	志願者数②	受験者数③	合格者数④	志願倍率 ②／①	実質倍率 ③／④
保育学科	20 名	99 名	84 名	31 名	5.0 倍	2.7 倍
総合文化学科	20 名	119 名	101 名	32 名	6.0 倍	3.2 倍

以上

【資料 6】

平成 30 年 3 月 13 日
島根県立大学アドミッション室
担当者 松崎
電 話 0855-24-2203

一般入試（後期日程）の受験状況について

平成 30 年度一般入試（後期日程）の受験状況をお知らせします。

■島根県立大学（平成 30 年 3 月 12 日実施）

	定員①	志願者数②	受験者数③	志願倍率 ②／①	受験倍率 ③／①
総合政策学部 総合政策学科	25 名	288 名	83 名	11.5 倍	3.3 倍
人間文化学部 地域文化学科	10 名	76 名	30 名	7.6 倍	3.0 倍

注：看護栄養学部と人間文化学部（保育教育学科）は、前期日程のみの実施です。

■合格発表

総合政策学部 3 月 20 日（火）10：00

人間文化学部 3 月 20 日（火）13：00

以上

平成30年3月13日
島根県立大学出雲キャンパス
担当：管理課 安立・工藤
〒693-8550 出雲市西林木町151
(TEL)0853-20-0200

【資料 7】

島根県立大学と島根県国民健康保険団体連合会との 包括的連携協定の締結について

1 目的

島根県国民健康保険団体連合会（以下「国保連」という）と公立大学法人島根県立大学（以下「本学」という）が連携協定を結ぶことにより、国保連の医療データを学術的に本学が研究分析を行い、その研究成果を国保連の構成団体に還元して、地域医療や保健・福祉の分野に成果を出していくこと等を目的として、包括的連携協力に関する協定の締結を行います。

2 調印式日時

平成30年3月14日（水） 10:30～11:00

3 会場

出雲市西林木町 151 島根県立大学出雲キャンパス 大会議室

4 主な内容

- ①島根県立大学理事長あいさつ
- ②島根県国民健康保険団体連合会理事長あいさつ
- ③協定内容説明
- ④調印
- ⑤質問受付

5 出席者

島根県国民健康保険団体連合会 理事長 速水雄一（雲南市長） ほか
公立大学法人島根県立大学 理事長 清原正義 ほか



平成 30 年 3 月 13 日
島根県立大学 出雲キャンパス
しまね看護交流センター
担当者：安食（管理課）
電話 0853-20-0220

【資料 8】

「島根県立大学 出雲キャンパス看護栄養交流センター」の開設について

1. 目的・理由

「島根県立大学出雲キャンパス看護栄養交流センター」は、平成 30 年 4 月に、出雲キャンパスに「看護栄養学部」を開設することを機に、これまで地域貢献活動の拠点としていた「島根県立大学しまね看護交流センター」を改称して新たにスタートするもので、島根県内及び近隣地域の保健・医療・福祉の各施設、行政機関、教育機関等と連携し、保健師、助産師、看護師、管理栄養士、栄養士等の資質の向上に資する専門知識や技術の教授、研究活動に対する支援、研究成果等の情報収集及び発信を行うとともに、看護学・栄養学の教育研究活動を通して得られた成果を広く地域社会に還元することを目的としています。

2. 日時・期間

開設：平成 30 年 4 月 1 日

3. 場所（所在地）

島根県立大学出雲キャンパス 1 号館 3 階
(島根県出雲市西林木町 151)

4. 内容・対象

事業内容（平成 30 年度）

- 1) 看護職を対象とした研修会
- 2) 看護研究指導、共同研究
- 3) 保健・医療・福祉機関、小中高校への講師派遣
- 4) 公開講座・出前講座
- 5) 学生のボランティア活動の支援
- 6) 産公学連携
- 7) タウンミーティング
- 8) 認知症看護認定看護師養成 等

5. これまでの経緯や今回の特徴など

出雲キャンパスでは、平成 25 年 10 月に、看護を核とした地域貢献活動の拠点として、「島根県立大学しまね看護交流センター」を開設し、地域との連携を図りながら、地域の生涯学習の支援や、看護職のキャリア支援、研究活動に対する支援、産公学連携等多岐にわたって事業を展開してきました。

このたびの「看護栄養学部」開設により、これまでの「看護学」に加え、「栄養学」の研究機能を活かし、より魅力ある事業を推進して参ります。

平成 30 年 4 月、「島根県立大学しまね看護交流センター」は、 「島根県立大学出雲キャンパス看護栄養交流センター」として 新たにスタートします。

島根県立大学は、学部・学科の改編を行い、松江キャンパスの健康栄養学科を出雲キャンパスに移転し、平成 30 年 4 月、山陰初の管理栄養士養成機関となる「看護栄養学部」を設置します。

これを機に、平成 25 年に看護を核とした大学と地域をつなぐ拠点として出雲キャンパスに開設した「島根県立大学しまね看護交流センター」を改称し、「島根県立大学出雲キャンパス看護栄養交流センター」として新たにスタートします。

当センターでは、本学の看護学・栄養学の教育研究機能を活かして、地域の生涯学習の支援や専門職者としての実践力の向上・研究活動に対する支援、産公学連携等に取り組み、地域に信頼される大学として魅力ある事業を推進して参ります。

「島根県立大学出雲キャンパス看護栄養交流センター」をお気軽にご活用くださいますようお願い申し上げます。



健康栄養学科棟新築



島根県立大学
出雲キャンパス

地域のニーズに応え、地域と協働し、
地域に信頼される大学

〒693-8550 島根県出雲市西林木町 151

島根県立大学出雲キャンパス看護栄養交流センター

TEL : 0853-20-0220

E-Mail : i-koryu@u-shimane.ac.jp (平成 30 年 4 月)

平成 30 年 3 月 13 日
島根県立大学松江キャンパス
地域連携課
担当：藤原
電話：0852-28-8322

【資料 9】

平成 30 年度 公開講座「椿の道アカデミー」受講者募集について

1. 地域の皆様の生涯学習の場を提供するため、平成 30 年度公開講座「椿の道アカデミー」を開講いたします。
2. 開講期間 平成 30 年 5 月～平成 31 年 2 月
3. 会場 島根県立大学松江キャンパス 体育館研修室 等
4. 内容 総合文化講座、出雲人論、はじめての古文書、しまね消費生活まちづくり講座、資格取得を目指すワープロソフト Word 応用講座など計 14 講座をご用意しています。受講対象は、社会人の方を中心に各講座によります。
5. 受講料 無料です。ただし、椿の道アカデミー会員として 2,000 円の登録料が必要です。講座によりテキスト代など実費が必要な講座もあります。
6. 申込受付 平成 30 年 4 月 2 日（月）～平成 30 年 4 月 20 日（金）
7. 申込方法 郵便・FAX・メールでお申込みください。詳しくはパンフレットまたはホームページをご覧ください。
8. 平成 30 年度は、スキルアップを目指す社会人の方や、夏休みの小学生親子を対象とした講座など新規講座も開講いたします。パンフレットは椿の道アカデミー会員の方へ発送するほか、3 月下旬に松江市内の公民館・図書館などの公共施設に配布を予定しています。

平成29年度

オールしまね 協働教育 まね

プラットフォーム

オールしまねCOC+事業
平成29年度成果報告
しまね協働教育パートナーシップ
キックオフセミナー

要申込

締め切り

3/9(金) 17:00

2018

3.16 (金)

[主会場]

島根大学 松江キャンパス
大学ホール

[副会場]

島根県立大学浜田キャンパス
中講義室4

※主会場の講演等を同時中継します。

石見地域からも
ご参加下さい！

[交流会]

創作料理 Chou Chou
(主会場のみ)

PROGRAM

14:05 【第1部】 オールしまねCOC+事業
平成29年度成果報告

14:35 【第2部】 しまね協働教育パートナーシップ
キックオフセミナー

(1) 基調講演
「企業成長戦略としてのインターンシップ事業」

宮城 治男 (NPO法人ETIC. 代表理事)

1993年より、若い世代が自ら社会に働きかけ、仕事を
生み出していく起業家型リーダーの育成に取り組み、
800名以上の起業家を支援。長期実践型インターン
シッププログラム、社会起業塾イニシアティブ、地域
における人材育成支援のチャレンジ・コミュニティ・
プロジェクトを実施。全国60地域に広がる。11年より
東北震災復興支援も行う。

(2) 各機関報告
「地方中小企業の人材確保と魅力発信」
「県内インターンシップの事例調査分析」
「県内の雇用情勢と就職支援」

(3) Q&Aセッション

18:00 交流会

※詳細は裏面をご参照下さい。



オールしまね 協働教育フォーラム

要申込

締め切り

3/9(金) 17:00

開会挨拶	オールしまねCOC+事業推進代表者 服部 泰直 (島根大学長)	14:00
【第1部】	オールしまねCOC+事業平成29年度成果報告	14:05
	「COCからCOC+へ これまでの軌跡・さらなる飛躍へ」 COC+事業部門長 高須 佳奈 (島根大学地域未来戦略センター講師)	
【第2部】	しまね協働教育パートナーシップキックオフセミナー	14:35
	① 基調講演	
	「企業成長戦略としてのインターンシップ事業」 宮城 治男 (NPO法人ETIC. 代表理事)	
	② 各機関報告	
	報告① 「地方中小企業の人材確保と魅力発信」	15:20
	久保田典男 (島根県立大学総合政策学部准教授・キャリアセンター長)	
	報告② 「県内インターンシップの事例調査分析」	15:50
	—学生が『伸び』を感じるインターンシップモデル作成にむけて— 丸山 実子 (島根大学キャリアセンター准教授)	
	報告③ 「県内の雇用情勢と就職支援」	16:05
	田中 麻里 (島根県商工労働部雇用政策課長)	
	休 憩 —参加者の質問票集約— (16:20~16:40)	
	③ Q&Aセッション	16:40
	第2部の講演・報告を受けて参加者の皆さんに書いていただいた質問を元に、 トークセッションを行います。 パネリスト：宮城 治男・久保田典男・丸山 実子・田中 麻里 司会・進行：田中久美子 (島根大学キャリアセンター講師)・高須 佳奈	
閉会挨拶	オールしまねCOC+事業推進責任者 佐藤 利夫 (島根大学副学長(地域連携・貢献担当))	17:25
	休憩・会場移動	
交流会	(創作料理 Chou Chou (島根県松江市西川津町4271 ピーナスガーデン TEL:0852-20-7230))	18:00

参加申込書

氏 名	フリガナ	
所 属		
連 絡 先	TEL	FAX
E-mail		
参加会場	<input type="checkbox"/> 島根大学 松江キャンパス <input type="checkbox"/> 島根県立大学 浜田キャンパス	
交流会の参加	<input type="checkbox"/> 参加する(会費4,000円) 交流会に参加される方は <input checked="" type="checkbox"/> の印を記入して下さい。 交流会 18:00~20:00 収容人数の都合上、先着100名とさせていただきます。ご了承ください。	



※島根大学松江キャンパスは駐車場に限りがありますので、できるだけ公共交通機関にてお越しください。

FAX 申込の方

FAX.0852-32-9816

E-mail 申込の方

lscrc@riko.shimane-u.ac.jp

(@の前は「エル・エス・シー・アール・シー」です。)

※電子メールでの申込の場合は、「件名 (subject)」に「オールしまね協働教育フォーラム」と明記のうえ、「本文」として参加申込書の項目(氏名・所属・連絡先・E-mail・参加会場・交流会の参加希望の有無)を記載し、上記アドレス宛てにご送信下さい。

【個人情報の取り扱いについて】ご提供いただきました個人情報は、本フォーラム運営の目的以外では使用いたしません。

お問い合わせ

島根大学地域未来戦略センター

TEL : 0852-32-9814 E-mail : lscrc@riko.shimane-u.ac.jp

※障がい等により配慮の必要な方は事前にご相談ください。